

第3章 結果の考察

1. 結果の考察

企画政策部企画政策課

今回の調査は、平塚市民の居住意向、生活の満足感、まちづくりに対する満足度や重要度に対する意識を調査し、今後、まちづくりを進めていくための基礎資料を得るとともに、平成19年度からスタートした「平塚市総合計画 生活快適・夢プラン」に基づき実施している本市のまちづくりに対して市民がどのように感じ、それぞれの基本目標をどう評価しているかを把握することを目的として実施しました。

このアンケートの結果により、次のことが明らかになりました。

■【1】あなたの今後における平塚市への居住意向などについて （問1）～（問4）

【平塚市の居住意向は8割以上。住み続けたい理由は依然「温暖な気候や自然環境」が上位】

（居住意向ありについて）

『今後の平塚市への居住意向』を質問した結果、83.0%の方が「住み続ける」又は「たぶん住み続ける」と回答しました。年代別に見ると、年代が上がるにつれて居住意向が高くなる傾向にあります。住み続けようと思う理由としては「温暖な気候で、海、山、川に囲まれ、自然環境が良い」が約6割となっています。同項目は、どの年代、地区においても上位になっており、調査を開始した平成25年度から引き続き、平塚市の居住意向につながる大きな要素となっています。

（移転意向ありについて）

一方、「移転する」又は「たぶん移転する」と回答した移転意向の方は7.2%でした。その理由としては「仕事や学校へ通うのに都合がよくない」が最も多く、次いで同率で「災害や犯罪に対して安心して生活できない」「バス・鉄道・道路・橋などが整備されておらず、市内外への移動がしづらい」「家族の都合で」となっています。年代別に見ると10代、20代で移転意向が高く、それぞれの理由の1位も「仕事や学校へ通うのに都合がよくない」であることから、進学や就職のために市外へ移転することが多いことが推測できます。また、地区別に見ると、全11地区中7つの地区で「仕事や学校へ通うのに都合がよくない」が最も高くなっています。転出意向を持つのは比較的若年世代が多いことが影響していると思われます。

（魅力や誇りにについて）

最後に居住意向とは別に『平塚市の魅力や誇りに感じる』を伺ったところ、「総合公園など施設の充実した規模の大きな公園」が41.0%と平成25年度調査と同様に高くなり、2位の「災害や犯罪が少なく、安心して生活できる環境」の26.6%を大きく上回り支持を得ています。

■【2】生活の満足感や、困っていること・心配ごとについて （問5）～（問7）

【現在の生活に満足している方は6割以上。ただし、経済的な悩みを持つ市民が増加】

『生活の満足度』は「満足している」又は「まあ満足している」と回答した方は63.9%でした。この割合は10代が最も高く、30代が最も低くなっています。

また、「やや不満である」又は「不満である」と回答した方の割合は、30代が最も高く、次いで20代、40代となっています。平成25年度調査と同様に20代から40代で不満を抱える傾向にあります。

困っていることや心配ごとについて、平成25年度の調査結果と比較すると、「今後の収入や資産の見通し」や「今後の収入や資産の見通し」の割合が高くなっています。このような傾向は、30代から40代における傾向としても見られることから、同年代における経済的な不安感が大きいと考えられます。

また、『悩みや不安を話せる人』について質問したところ、8割以上の方が「家族・親族」、次いで5割以上の方が「友人」に話せると回答しています。また、年代別では、60代以上の方は「地域や近隣の人」と回答する割合が高くなっています。特に70代以上の方では、21.3%と高く、地域とのつながりが生活の上で重要であることが伺えます。

■【3】地域のために、地域（あなた）ができることについて（問8）～（問10）

【地域で取り組むとよいと思うことは「防災訓練など災害時に地域で助け合えるようにすること」。実際の地域への関わりはまだ少ない】

住みよい地域にするためには、地域の方の関わりが必要であることから、『地域で取り組むとよいと思うこと』、『実際に地域のために行っていること』、『できること（してみたいこと）』について伺いました。

まず、地域で取り組むとよいと思うことは、割合が高い順に「防災訓練など災害時に地域で助け合えるようにすること」、「高齢者や障がい者など地域で困っている人を地域で支え合うこと」、「子どもの見守りや夜回りなど地域の安全を守ること」となっています。

また、『現在行っていないことで、今後できること（してみたいこと）』について伺った結果では、7割以上の方が何らかの取組みができる（してみたい）としており、地域活動への関心が伺えます。

このような意識の高さは、平成25年度の調査においても同様に見られましたが、今回の調査において『実際に行っていること』について伺ったところ、「特にない」と回答した方が最も多く、平成25年度の調査と比較して割合が増加しています。関心はありますが、実際の行動には結びつきにくい状況となっていると思われます。

■【4】まちづくりの状況について（問11）

「平塚市総合計画 生活快適・夢プラン」に基づき実施している本市のまちづくりに対して市民がどのように感じ、それぞれの基本目標をどう評価しているかを把握するための質問です。

基本目標ごとに次のようなグループ名を付けて伺っています。

- | |
|--------------------------------|
| 基本目標1：《学校教育・生涯学習・交流》（問11-1～7） |
| 基本目標2：《地域づくり・子育て・福祉》（問11-8～15） |
| 基本目標3：《環境・都市基盤》（問11-16～21） |
| 基本目標4：《産業》（問11-22～30） |
| 基本目標5：《安全・快適・行政》（問11-31～40） |

○基本目標1について

・全体的な傾向

【学力の定着や豊かな人間性が育まれる環境づくりが望まれる】

満足度は、他の基本目標と比較して平均値に近くなりますが、項目別に見ると社会教育に関する分野では高くなる傾向にあります。また、重要度は、項目によってばらつきが大きく、子どもに関する分野で高くなる一方、社会教育に関する分野では低くなる傾向にあります。子どもに関する分野の重要度は、年齢や子どもの有無等に関わらず、5つの基本目標に位置付く全40項目と比較しても高く、多くの市民に共通する重要な分野となっています。また、社会教育に関する分野でも、子どもの学習や成長の面から重要とする意見があります。これらのことから、今の子どもが未来を担っていくために、学力の定着や豊かな人間性が育まれる環境づくりが望まれていると思われます。

・前回調査との比較

【青少年の穏やかな成長を社会全体で支えるための取組みが必要】

基本目標1の総合評価の結果を平成25年度と比較すると、満足度が0.9ポイント増加し、重要

度が 0.9 ポイント減少しました。基本目標 1 の項目ごとに平成 25 年度と比較すると、重要度の高い青少年の育成環境に対する満足度の評価がわずかではありますが改善していることから、このような評価が全体評価を高めた一因として考えられます。評価の理由としては、自分や近所の子どもの成長の様子から満足とする意見がある一方、非行少年の存在や、子どもを見守る地域の状況等を理由として不満とする意見があります。青少年の育成環境の重要度の高さからも、引き続き満足度の向上に向け、青少年の穏やかな成長を社会全体で支えるための取組みが必要であると思われます。

調査年度	満足度 (%)	重要度 (%)
26 年度 (今回調査)	1 2 . 2	5 4 . 2
25 年度 (前回調査)	1 1 . 3	5 5 . 1

○基本目標 2 について

- ・ 全体的な傾向

【少子化や高齢者人口の増加への対応が求められている】

満足度は、基本目標 2 に位置付く項目間のばらつきが少なく、どの項目も平均値に近くなっています。しかし、市民の属性によっては不満な傾向が高くなる項目もあることから、細かく市民のニーズを把握し、取組みを進めていく必要があります。重要度は、項目によってばらつきが大きく、子育て、医療、福祉の分野で高くなっています。重要度の評価の理由には、年代や性別に関わらず、少子化や高齢者人口の増加が多く挙げられており、これらの社会的課題への対応が強く求められていると思われます。一方、地域活動に関する分野の重要度は低くなる傾向にあります。社会的課題に対応するには、これまで以上に地域の力が必要であるため、市民の意識や行動が高まるよう、底上げが必要な分野となっています。

- ・ 前回調査との比較

【子どもを産み育てやすい環境作りが求められている】

基本目標 2 の総合評価結果を平成 25 年度と比較すると、重要度が 1.3 ポイント増加しました。また、満足度も増加していますが、その差は 0.4 ポイントとわずかでした。平成 25 年度の調査からの重要度の変化を項目別に見てみると、保育環境に関する分野が最も大きく増加しているため、少子化の進展によって子育て環境に対する市民意識が一層高まっていると思われます。引き続き、子どもを産み育てやすい環境作りが求められているといえます。

調査年度	満足度 (%)	重要度 (%)
26 年度 (今回調査)	8 . 8	5 8 . 7
25 年度 (前回調査)	8 . 4	5 7 . 4

○基本目標 3

- ・ 全体的な傾向

【平塚市の魅力として自然を守っていくことが望まれている】

基本目標全体としては、他の基本目標と比較して相対的に重要度が高く、満足度も高い分野となっています。この分野は、問 4 の『本市の魅力や誇り』として多く選択されている「規模の大きな公園」や「緑や社寺林、田園環境」に関連する項目が含まれる分野であり、「公園・緑地」や「自然環境」の項目の満足度が他の項目と比較して相対的に高い傾向にあります。自由意見でも緑の豊かさや公園の管理等、肯定的な意見が多くあります。一方で、開発によって自然がなくなりつつあることを危惧する意見もあり、平塚市の魅力として自然を守っていくことが望まれています。引き続き、高い満足度を維持し、本市の魅力として保っていけるよう環境に配慮したまちづくりを進める必要があるといえます。

・前回調査との比較

【下水道や河川、排水路の整備に対する意識が高まる】

基本目標3の総合評価結果を平成25年度と比較すると重要度が高まる一方、満足度が低下しました。評価結果を項目別に平成25年度と比較してみると、「下水道や河川、排水路の整備」の重要度が最も大きく増加しています。また、満足度は、自然環境や景観等の項目で大きな変化が見られませんが、「下水道や河川、排水路の整備」では満足度が大きく低下しました。このことから同項目の評価が基本目標3の全体評価に影響を与えたと考えられます。「下水道や河川、排水路の整備」の重要度が高まり、満足度が低下するに至った要因としては、評価の理由に台風時の排水不良を挙げる意見が多くあるため、平成26年に発生した台風18号の影響が強いと思われます。水質保全等の環境面ではなく、全国的な自然災害の規模の拡大に伴う不安から、「下水道や河川、排水路の整備」に対して市民意識の高まりがあると思われます。

調査年度	満足度 (%)	重要度 (%)
26年度 (今回調査)	20.0	59.4
25年度 (前回調査)	22.5	55.6

○基本目標4

・全体的な傾向

【駅前の魅力創出が大きな課題】

基本目標全体としては、他の基本目標と比較すると相対的に重要度、満足度共に低くなる傾向にあります。重要度の評価の理由には、まちの魅了や活性化、雇用、税収確保等の面から重要とする意見がある一方、「生活に即していないからわからない」との意見があります。利便性や安心安全に関わる他の基本目標と比較すると普段の生活に直接結び付きにくい分野であることが、重要度の低さにつながっていると思われます。また、満足度の評価の理由では、駅周辺の活気を課題として挙げる意見が目立ちます。項目ごとの評価を見ても、商業の充実や駅周辺のにぎわいに関する項目の満足度が顕著に低く、駅周辺の魅力を高め、にぎわいを感じられるまちづくりが期待されています。

・前回調査との比較

【商業の充実に向けた取り組みが必要】

基本目標4の総合評価結果を平成25年度と比較すると、重要度が1.2ポイント増加する一方、満足度が1.5ポイント低下しました。評価結果を項目別に平成25年度と比較すると、重要度では大きな違いが見られません。しかし、満足度の評価では、基本目標4の中で重要度が高い「魅力ある商店街の推進など商業の充実」が前年度より0.08ポイント減少し、最も大きく満足度が低下しました。このことから同項目の評価結果が基本目標4全体の満足度評価に影響を与えたと考えられます。引き続き、満足度の向上に向けての関係機関と連携した効果的な施策の展開が必要とされます。

調査年度	満足度 (%)	重要度 (%)
26年度 (今回調査)	3.4	44.3
25年度 (前回調査)	4.9	43.1

○基本目標5について

・全体的な傾向

【不安感の解消が望まれている】

基本目標全体としては、他の基本目標と比較して相対的に重要度が高くなります。また、項目別では、災害や日常生活の安全に関する項目の重要度が高くなります。重要度の評価の理由としては、海や川があるという本市の地理的な特性や、全国各地の災害に関する報道を受けての不安、日常生活や生命に直結する分野である等の意見が挙げられています。満足度については、全基本目標の平均値に近いものの、「消防・救急などの体制整備」を除くすべての項目で不満を持つ傾向にあり、重要度の高さからも安心安全な生活の確保に向けた施策の展開が求められています。

・前回調査との比較

【災害に強いまちづくりが期待される】

基本目標5の評価結果を平成25年度と比較すると、満足度が1.2ポイント、重要度が0.7ポイント減少しました。満足度を項目別に平成25年度の調査と比較してみると、重要度が高い災害に関する項目の満足度がわずかではありますが低下したことから、災害に対して不満とする評価の高まりが基本目標全体の評価に影響を与えた可能性が考えられます。基本目標間における相対的な重要度の高さだけでなく、経年変化の動向からも安心安全な生活の確保に向けた施策の推進が望まれていると推測されます。

調査年度	満足度 (%)	重要度 (%)
26年度（今回調査）	8.0	58.2
25年度（前回調査）	9.2	58.9